

1. 授業のねらい・概要

この授業は、日本商工会議所主催の簿記検定試験（以下、「日商簿記」）3級合格を目指した講義である。検定試験などの資格取得は、単に授業を聴講しているだけでは合格できません。授業の内容を理解したうえで、練習問題を中心にした復習を十分に行うことが必要である。したがって、授業の中でも、問題演習を中心に解説し、本試験までに不明な事項がないようにする。

2. 授業の進め方

2月下旬に予定されている日商簿記3級を合格目標に、下記の授業計画に従ってワークブック・テキストの計算演習問題をわかりやすく解説していく。また、ワークブック・テキスト以外の練習問題も実力を確認するために、配付・解説していく予定である。したがって、受講生は毎回必ず電卓を持参してくること。

3. 授業計画

1. 簿記のしくみと簿記検定試験（ガイダンス）	9. 費用収益の繰延べと見越し
2. 現金・現金過不足、当座預金・当座借越	10. 試算表の作成(1)
3. 商品売買と売上原価	11. 試算表の作成(2)
4. 仕入帳・売上帳、商品有高帳	12. 試算表の作成
5. 売掛金・買掛金、貸倒れと貸倒引当金	13. 帳簿の締め切りと財務諸表の作成
6. 受取手形・支払手形、その他の債権・債務	14. 伝票その他
7. 有価証券、固定資産の取得・売却・減価償却	15. 出題形式別問題演習
8. 営業費、資本金・引出金、税金	

4. 到達目標

2月末に実施される日商簿記3級検定の合格を目標とする。

5. 準備学習に必要な時間、又はそれに準ずる程度の具体的な学習内容

授業計画に基づいた項目について30分程度テキストを予習してくること。

6. 成績評価の方法・基準

期末試験の結果と授業態度等を総合して評価する。また、授業の中で実施するプリントによる小テストの結果も参考にすることができる。

7. テキスト・参考文献

渡辺正直ほか『段階式／日商簿記ワークブック・検定問題集3級 三訂版』、実教出版

8. 受講上の留意事項

1年次に開講している「簿記論」を履修した程度の簿記能力を有した者を対象とする。